

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 2 日現在

機関番号：12701

研究種目：若手研究

研究期間：2021～2023

課題番号：21K13361

研究課題名（和文）The influence of language diversity on employee voice in the multinational workplace in Asia

研究課題名（英文）The influence of language diversity on employee voice in the multinational workplace in Asia

研究代表者

YANG YUNYUE (Yang, Yunyue)

横浜国立大学・大学院国際社会科学研究院・准教授

研究者番号：00881905

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,600,000円

研究成果の概要（和文）：この研究は、アジアにおける従業員の発言行動を、言語とジェンダーの多様性に焦点を当てて検証するものである。1年目には関連文献のレビューを行い、概念論文を作成した。2年目には中国で現地従業員の英語力が外国人駐在員に対する発言行動に及ぼす影響の実証研究を実施し、また、日本とイギリスで性別が発言戦術に与える影響を調査する実験を行った。3年目には、英語力と海外駐在の意向に関する論文と、アジア太平洋地域の発言風土の性別差を扱った論文の2本を完成させた。この3年間で、研究成果は国際学会で発表し、そのうち3本がアメリカ経営学会で採択された。現在、1本の論文が査読中であり、他の研究も投稿準備中である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

既存の研究では、異なる背景の従業員の発言行動がどのように現れ、それがどのような意味を持つかが軽視されがちである。本研究は言語とジェンダーの多様性に焦点を当て、これらの多様性がアジアの文脈における従業員の発言行動にどのような影響を与えるかについてより深い理解を提供している。社会的意義においては、多様な職場で従業員の発言行動を理解し促進することは、組織の発展と競争力にとって極めて重要である。本研究は、外国人従業員や女性などのマイノリティ・グループの発言行動に関する重要な洞察を提供し、組織がより包括的な環境を促進するのに役立っている。

研究成果の概要（英文）：This research examines employee voice in the Asian context, with a focus on language and gender diversity. In the first year, I reviewed the literature and developed a conceptual paper on how language diversity affects employee voice. In the second year, I conducted an empirical study in China to assess how local employees' English proficiency affects their voice towards expatriates, and a scenario-based experiment in Japan and the UK focusing on gender differences in voice tactics. In the third year, I completed two papers: one on English proficiency and expatriation intentions, and another on gender differences in voice climate across the Asia-Pacific region.

Over the three years, I presented these findings at top international conferences, including three papers accepted at the Academy of Management Annual Conference. One paper is under peer review and additional studies are being prepared for submission.

研究分野：Organizational Behavior

キーワード：employee voice language diversity gender Asia

## 1. 研究開始当初の背景

現代の組織では、異なる言語背景を持つ従業員が共に働くことが一般的であり、多くの企業が外国に子会社を設立し、駐在員を派遣している。また、高齢化による労働力不足への対処や外国顧客とのコミュニケーションのために外国人従業員の雇用が不可欠である。このため、異なる母国語を持つ同僚や顧客、サプライヤーとのコミュニケーションが必須となり、言語の問題が組織生活のあらゆる側面に影響を与えている。

近年、言語多様性は学術的な注目を集め、国際ビジネスの文献で頻繁に議論されている。言語多様性が多国籍職場での個人の感情的、認知的、行動的経験に重要な影響を与えることが示されている。しかし、組織行動の分野で言語多様性の視点を取り入れた研究は限られている。

## 2. 研究の目的

本研究では、言語に関連する問題(例えば、言語の壁や共通言語能力)が従業員の発言行動に影響を与えるかどうか、どのように、いつ影響を与えるか、また従業員の発言行動がどのような結果を生じるかを明らかにすることを目的とした。加えて、この研究は、アジアにおける従業員の発言行動の性質、特にアジアの多国籍職場において従業員の発言行動が言語の多様性からどのような影響を受けるかについての理解を深めるものであった。

研究を進行中に、言語多様性以外にもう一つの多様性、すなわちジェンダーの多様性にも着目することになった。これは、ジェンダーが発言行動に与える影響が、特にアジアの文化的背景において重要であると考えられるためである。アジアでは、性別による役割分担や期待が強く、これが従業員の発言行動に影響を与える可能性がある。そのため、ジェンダー多様性がアジアの従業員の発言行動にどのように影響を与えるかを検討することももう一つの目的となった。

## 3. 研究の方法

本研究の研究方法は主に以下の4つの方法を用いて行われた。

- 1) 文献調査: 従業員の発言行動をはじめとする組織行動分野の既存研究を広範囲にレビューした。これにより、発言行動に関連する理論的背景や既存の知見を深く理解し、研究の基盤を築いた。
- 2) シナリオ実験: 発言行動の結果を検証するために、シナリオ実験を採用した。シナリオ実験を用いる理由は、実際の職場環境を再現しつつ、特定の要因(例: 発言行動の特徴やジェンダーの多様性)が従業員の発言行動にどのように影響するかをコントロールしやすいためである。また、シナリオ実験は参加者が仮定の状況でどのように行動するかを観察できるため、現実の職場では捉えにくい細かな行動パターンを明らかにするのに適している。
- 3) アンケート調査: 多国籍職場で働く従業員を対象にアンケート調査を実施した。アンケート調査を通じて、言語能力が従業員の発言行動に与える影響を定量的に測定し、統計的な分析を行った。これにより、広範なデータを収集し、発言行動に関する多様な要因を検討することが可能となった。
- 4) Second-hand data の利用: 既存のデータベースを活用して、アジア太平洋の範囲でジェンダー多様性と従業員の発言風土の関係を明らかにした。既存のデータを利用することで、広範なデータセットを効率的に活用し、研究の信頼性と妥当性を高めた。

## 4. 研究成果

### (1) 多国籍チームにおける言語障壁と発言行動との関係の議論

広範な先行研究のレビューに基づいて、概念論文を完成した。本論文は異文化コミュニケーションと組織行動論の中の進取的行動(発言行動及び自主的な支援行動)に着目し、多国籍チームにおいて言語と進取的行動との関係を議論する理論論文である。従来の研究は進取的行動の促進要因について幅広く議論しているが、本論文では、国際化の進展に伴い多国籍チームが一般的になっているなかで、異国籍のチームメンバーの進取的行動がどのような要因に影響されるかに焦点を当てる。

特に言語という多国籍チーム内で著しい差異がありうる要素に着目し、言語理論及びパワー理論に基づいて、言語と進取的行動との理論モデルを構築した。言語理論からは、言語能力が低いメンバーは言語障壁を感じるために、言語能力が高いメンバーよりも進取的行動をしない傾向があると予想される。一方、パワー理論に基づくと、言語能力が低いメンバーは言語不足がもたらすパワーが低い状況を補うため、言語能力が高いメンバーよりも進取的行動をする傾向があると予想される。これらの相反する仮説を統合するために時間概念を導入し、異国籍メンバーの進取的行動に対する言語の影響とパワーの影響は、チーム進化のステージによって異なるこ

とを議論した。

本論文の強みの一つは国際ビジネスに幅広く検討されている言語という概念を組織行動論に導入したことである。もう一つの強みとして、本研究は初めて系統的に言語を促進要因として進取的行動との関係を議論し、理論モデルを構築した点である。現在、本論文はすでに完成し、ジャーナル投稿準備中である。

#### (2) 多国籍企業における現地従業員の英語力と海外派遣従業員に対する発言行動との関連性の発見

現代の多国籍企業において、効率的にコミュニケーションをするために、英語という共通言語を採用するのは一般的である。このような環境において、現地従業員の英語力が海外派遣従業員に対する発言行動にどのように影響を与えるのかに興味を持ち、実証研究を行った。中国の多国籍企業で働く中国人のデータを利用した結果、現地従業員の英語力が高いほど、海外派遣従業員と信頼関係を構築しやすくなり、さらに発言行動をするようになることが明らかになった。このような関係は、本社が英語圏の国にある多国籍企業の場合、より顕著である。

本研究の貢献として、言語能力が多国籍職場における従業員の発言行動に与える影響を明らかにし、組織が従業員のコミュニケーション能力を向上させるための具体的な施策を検討するための基盤を提供した点が挙げられる。これにより、多国籍企業がより効果的に運営されるための実践的な洞察を提供し、異文化間の信頼関係の構築と従業員の積極的な発言行動を促進するための知見を提供した。現在、本論文はすでに完成し、ジャーナル投稿準備中である。

#### (3) 多国籍企業における現地従業員の英語力と海外派遣意向との関係性を明らかにした

多国籍企業従業員の言語能力は、組織内の行動（発言行動など）に影響を与えるだけでなく、現地従業員の海外派遣意向にも影響を与える可能性があるため、現地従業員の英語力と海外派遣意向との関係性を明らかにするために、実証研究を行った。特に、研究期間中はコロナの影響で多くの人々が海外で働くことに不安や抵抗を感じるようになり、海外派遣意向の先行要因を把握することが重要な課題となっていた。本研究では、英語力に加えて、文化的知能という重要な要因も併せて検討し、英語能力と文化的知能のどちらが決定的な要因になるかを検証した。研究方法として、「必要条件分析」を使用した。結果として、英語能力は海外派遣意向の必要条件ではなく、文化的知能の動機のおよび行動的側面の両方が必要条件であるが、十分条件ではないことが示された。本研究は、異文化能力が国際経営に与える影響についてより正確な理解を提供し、実務においても適用可能な貴重な洞察を提供するものである。

本論文は2024年度のアメリカ経営学会に採択されており、発表を予定している。近いうちに、論文を修正して投稿する予定である。

#### (4) ジェンダーの視点で発言行動を検討した

現代の職場において、言語多様性のほか、ジェンダーの多様性も注目されている。特に、アジアの職場において、発言行動に関して、男女差の現状および影響についての知見は限られている。この理解を深めるために、二つの研究を行った。一つ目の研究は、心理的な側面から男女が感知する発言風土がどのように異なるか、さらにどのような結果に導くかを検討した。APAC14 力国のデータを利用して分析した結果、男性に比べて女性が認識される発言環境は低く、その結果、女性の離職意向が高くなり、仕事の満足度が低くなることが明らかになった。特に、このような関係は個人主義の文化のもとで、より顕著である。もう一つの研究はシナリオ実験を利用して、発言行動がもたらす結果にどのような男女差があるかを検討した。具体的には、感情的な発言行動に比べ、理性的な発言行動のほうが自発的行動として認められやすく、上司から権限が与えられる可能性が高くなる。特に、この関係は女性の場合、より顕著であることがわかった。これらの研究結果は、ジェンダーの多様性が発言風土に与える影響を明らかにし、アジアの職場環境におけるジェンダー平等の促進に寄与するものである。企業がより包括的な職場を構築するための具体的な施策を検討するための基盤を提供するものである。

この二つの論文は2023年度のアメリカ経営学会に採択され、発表した。現在、1本目の論文はジャーナル投稿準備中であり、2本目の論文は査読中である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 3件）

1. 発表者名 Yang, Y., & Zhang, S.
2. 発表標題 The determinants of supervisors' empowering behaviors in Japan: The role of voice tactics and gender
3. 学会等名 The 38th Euro-Asia Management Studies Association (EAMSA) Annual Conference (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Yang, Y., Li, J., & Sekiguchi, T.
2. 発表標題 Gender difference in perceived voice climate and its consequences: A cross-cultural examination
3. 学会等名 The 83rd Annual Meeting of the Academy of Management (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Yang, Y., & Zhang, S.
2. 発表標題 How does employee voice influence empowering leadership? The roles of voice tactics and gender
3. 学会等名 The 83rd Annual Meeting of the Academy of Management (国際学会)
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
中国	Xi'an Jiaotong Liverpool University			